

群 教 セ	G05 - 03
	令 2.275 集
	音楽一小

音楽のよさを感じ取り、主体的に音楽と関わることができる児童の育成

—自分が感じたことと、音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考える活動を通して—

特別研修員 藤波 美佐

I 研究テーマ設定の理由

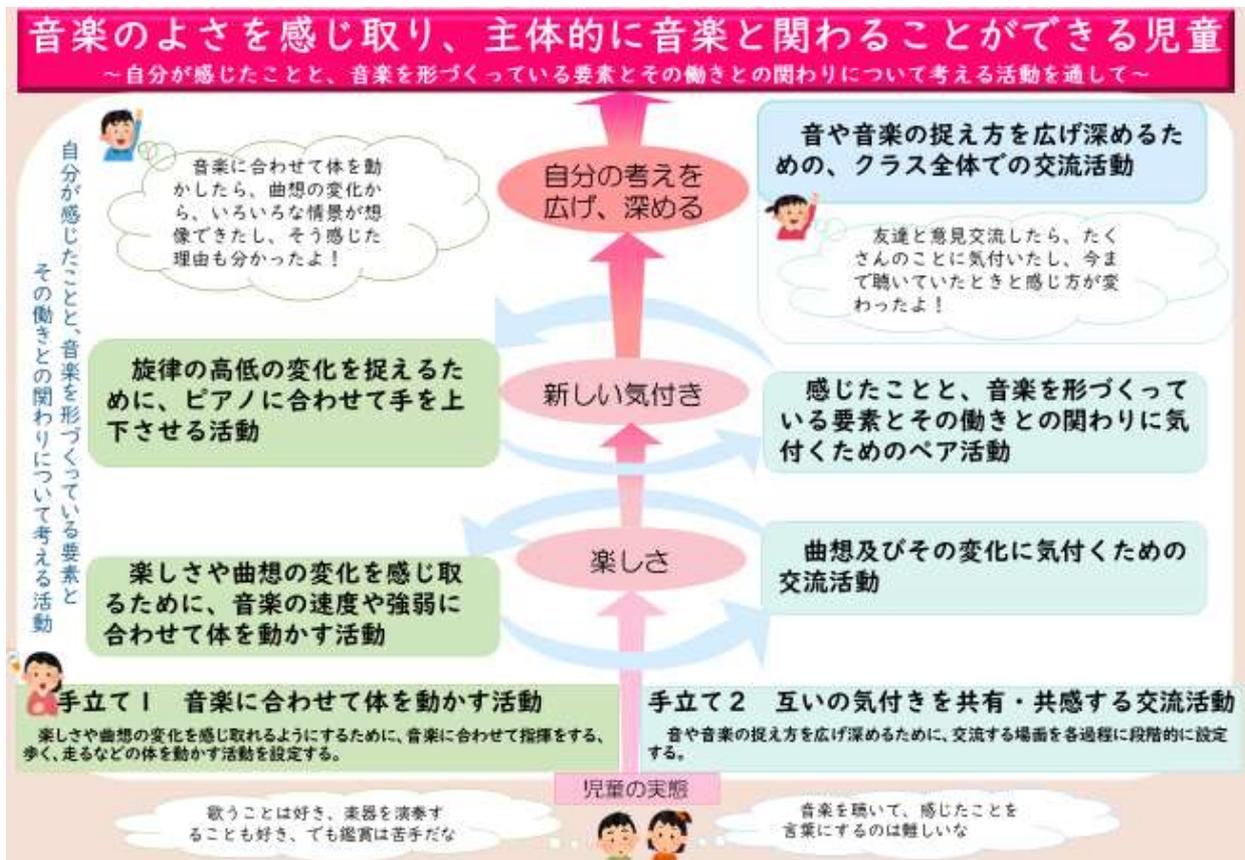
学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。それは、児童が学ぶことに興味をもち見通しをもって、児童同士や教師と対話・協働しながら学びを深める授業と捉える。その深い学びの鍵として、「見方・考え方」を働かせることが重要と示されている。小学校学習指導要領解説音楽編において、音楽的な見方・考え方を働かせるとは、「児童が自ら音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情、捉えたことと生活や文化などを関連付けて考えること」と示されている。

研究協力校の児童は、音楽の授業において、歌ったり楽器を演奏したりすることは好きで、主体的に取り組むことができる。しかし、鑑賞に苦手意識をもつ児童が多く見られる。その理由は、聴く視点が分からないことや、自分が感じたことを言葉にすることが難しいためと考える。

そこで、音楽を、速度や強弱などの音楽を形づくっている要素やその働きの視点で捉え、児童自身が感じたことと関連付ける活動を行うことを通して、児童が音楽のよさを感じ取り、主体的に音楽と関わることができると考え、本テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

音楽の速度や強弱に合わせて体を動かすことで、曲想及びその変化を捉える。それを基に音を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えながら聴き、その考えを友達と交流することで、曲や演奏のよさを見いだすことができるようにするために、次のような手立てを講じた。

手立て1 音楽に合わせて体を動かす活動

- ・楽しさや曲想及びその変化を感じ取れるようにするために、曲の雰囲気に合わせて体を動かしたり、体全体を使って拍の流れやリズムを感じ取ったりする活動を常時活動として取り入れる(図1)。
- ・鑑賞に苦手意識をもっている児童も楽しさを感じられるように、音楽に合わせて指揮をする、歩く、走るなどの体を動かす活動を設定する。



図1 拍の流れによって体を動かす常時活動

手立て2 互いの気づきを共有・共感する交流活動

- ・友達に自分の感じ取ったことを伝えやすくするために、イメージや感情を表す言葉を常時掲示する(図2)。
- ・自分の感じたことを言葉で表現したり、音や音楽の捉え方を広げ深めたりするために、友達との交流の場を設定する。
- ・気づきの質を高めるために、交流する場面を各過程に段階的に設定する。

楽しい	かわいらしい	悲しい	はげしい
明るい	やさしい	暗い	いさましい
元気な	落ち着く	さびしい	はく力のある
はなやかな	やわらかい	終わる	堂々とした

図2 イメージや感情を表す言葉の例

III 研究のまとめ

1 成果

<手立て1 音楽に合わせて体を動かす活動>

- 音楽に合わせて体を動かすことで、鑑賞に苦手意識をもっていた児童も楽しそうに曲を聴きながら音楽の速度や強弱に合わせて体を動かすことができた。また、そのような活動を取り入れたことで、情景などの具体的なイメージをもったり、曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いたりすることができた。

<手立て2 互いの気づきを共有・共感する交流活動>

- ペアで伝え合ったり、クラス全体で意見交流をしたりすることで、自分と友達の気づきや感じ方を比較することができた。そこで、同じ考えがあることに共感したり、友達の意見を取り入れて音や音楽の捉え方を広げ深めたりすることができたことが、更に興味をもって鑑賞することにつながった。
- 音楽を形づくっている要素とその働きなど、聴き取ったことと、児童自身が感じ取ったことを分類整理して板書し、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて考えさせたことで、児童自身が、音楽のよさやおもしろさなどを見いだすことができた。
- 1時間目は、曲想及びその変化に気付くための交流、2時間目は、児童自身が感じたことと、音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて気付くための交流、3時間目は、音や音楽の捉え方を広げ深めるための交流と、段階的に気づきの質が高まるよう題材を構成したことで、児童は、曲や演奏のよさを感じ取り、進んで音楽の授業に取り組むことができた。

2 課題

- 交流する活動において、児童同士の気づきの質をより高めるために、自分と友達の気づきや感じ方を比較できるような教師の言葉掛けの工夫や、交流前後で児童自身が、自分の考えの広がりや深まりを実感できるようなワークシートを工夫する必要がある。

実践例

1 題材名 ききどころを見つけて（第4学年・2学期）

教材名 「ノルウェー舞曲第2番」（グリーグ作曲）

2 本題材について

本題材は、曲全体の雰囲気を感じ取って聴いたり、曲想及びその変化について音楽を形づくっている要素を手掛かりに聴き取ったりすることをねらいとしている。まず、「ノルウェー舞曲第2番」を聴き、音楽の速度や強弱に合わせて歩いたり体を動かしたりすることで、曲想及びその変化を捉える。それを基に音を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考えながら聴き、その考えを友達と交流することで、曲や演奏のよさを見いだすことができるようにする。

以上のような考えから、本題材では以下のような指導計画を構想し実践した。

目標	ア	「ノルウェー舞曲第2番」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付く。（知識及び技能）
	イ	「ノルウェー舞曲第2番」の音色、リズム、旋律、強弱、速度などを聴き取り、それらの働きが生み出すよさやおもしろさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴く。（思考力、判断力、表現力等）
	ウ	「ノルウェー舞曲第2番」の音楽の特徴などに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組み、オーケストラの音楽に親しむ。（学びに向かう力、人間性等）
評価 規 準	(1)	「ノルウェー舞曲第2番」の曲想及びその変化と、音楽の構造との関わりについて気付いている。（知識・技能）
	(2)	「ノルウェー舞曲第2番」の音色、リズム、旋律、強弱、速度など、音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさやおもしろさ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと聞き取ったこととの関わりについて考え、曲や演奏のよさなどを見だし、曲全体を味わって聴いている。（思考・判断・表現）
	(3)	「ノルウェー舞曲第2番」の音楽の特徴などに興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。（主体的に学習に取り組む態度）
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	<ul style="list-style-type: none"> 「ノルウェー舞曲第2番」の曲想及びその変化を捉えながら聴く。 「ノルウェー舞曲第2番」への興味・関心をもち、学習の見通しをもつ。
追求する	第2時	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素を手掛かりに、互いの気付きを共有・共感しながら聴く。 曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて探る。
まとめる	第3時	<ul style="list-style-type: none"> 曲全体を聴きながら、音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりから想像したことを紹介文にまとめる。 紹介文を友達と意見交流し、曲全体を味わって聴く。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は、全3時間計画の第2時に当たる。前時で感じ取ったことを手掛かりに、互いの気付きを共有・共感しながら聴くことを通して、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりに気付けるよう、次のような手立てを具体化した。

手立て1 音楽に合わせて体を動かす活動

- 前時に学習した曲の情景を想起できるようにするために、「ノルウェー舞曲第2番」のCDを聴きながら音楽の速度や強弱に合わせて体を動かす（次ページ図3）。
- 旋律の高低の変化を捉えやすくするために、教師がピアノで曲を演奏し、それに合わせて手を上下させる（5ページ図6）。

手立て2 互いの気付きを共有・共感する交流活動

- ・児童自身が感じたことと、音楽を形づくっている要素との関わり気付けるようにするために、ペアで友達と互いの気付きを交流する場を設定する（図4）。
- ・音楽を形づくっているどのような要素に気付いたかを可視化させ、自分と友達との気付きの相違点について比較できるようにするために、聴き取ったこと一つにつき1枚の付箋紙に書かせる（図5）。
- ・音や音楽の捉え方を広げ深めるために、ペアでの活動を基に、クラス全体で意見交流する場を設定する。
- ・曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて考える手掛かりにさせるために、自分が感じたことと、音楽を形づくっている要素を関連付けて板書する（次ページ図7）。

4 授業の実際

本時の展開（全3時間の2時間目）

【ねらい】 音楽を形づくっている要素を手掛かりに、互いの気付きを共有・共感しながら聴くことを通して、曲想及びその変化と音楽の構造との関わり気付くことができるようにする。

手立て1 <前時に学習した曲の情景を想起させる場面>

実際のやり取りの様子

- T : 前時で想像した情景を思い出すために、「ノルウェー舞曲 第2番」を体を動かしながら聴いてみましょう。
- T : 「始め」の部分はどんな感じがしましたか？
- S1 : お花畑をゆかいにスキップしている感じがしました。
- T : では、「中」の部分は、どうでしたか？
- S2 : 蜂に襲われて、慌てて逃げている感じがしました。
- T : 「終わり」の部分は、どうでしたか？
- S3 : 雨が止んで、花に雫が輝いている感じで終わりました。
- T : 「始め」「中」「終わり」でこんなに違って聴こえたのはどうしてなのか、今日は、その秘密を見付けましょう。



図3 音楽の速度や強弱に合わせて体を動かす活動

手立て2 <自分が感じたことと、音楽を形づくっている要素とその働きとの関わり気付くための交流場面>

実際のやり取りの様子

- S4 : 「中」の部分で、お花畑にいたら、雨が降ってきて、逃げている感じがしたのは、音色が低くなったからです。
- S5 : 「中」の部分で、蜂に襲われて逃げていると感じたのは、旋律が細かくなったからです。
- S4 : 「逃げている」で同じ感じに思ったけど、その理由は、音色と旋律で違ったんだね。
- S5 : 本当だ。同じ曲を聴いても、人によって感じ方が違うんだね。



図4 ペアで自分の感じたことを伝え合う活動

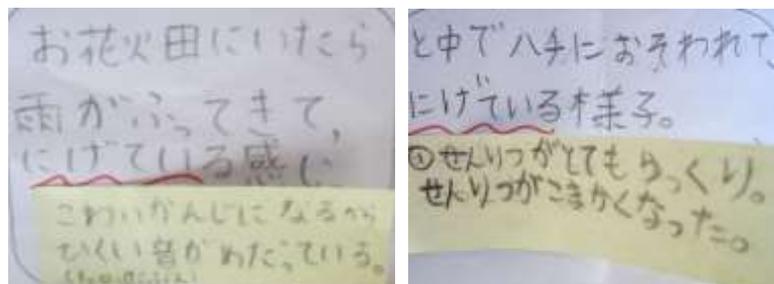


図5 児童S4とS5が書いたワークシート

手立て1 <旋律の高低の変化を捉えやすくするために、ピアノに合わせて手を上下させる場面>

実際のやり取りの様子

S6: 「始め」の部分は、旋律が大きく跳んでいる（跳躍進行）けど、「中」の部分は、旋律が隣（順次進行）に動いてる。
 T: 本当に旋律がそうなっているのかを、まずは、「始め」の部分をピアノに合わせて、手を上下させながら確かめてみましょう。
 S7: 旋律が大きく上下していた。
 T: 次は、「中」の部分の旋律を確かめてみましょう。
 S8: 本当だ。だんだん低くなっている。

跳躍進行



順次進行





図6 旋律の高低の変化を捉えるために、手を上下させる活動

手立て2 <音や音楽の捉え方を広げ深めるために、クラス全体で意見交流をする場面>

実際のやり取りの様子

S9: 「始め」の部分が、優雅に聴こえました。
 T: どうして、優雅に聴こえたの？
 S9: 音色がきれいだったから。
 T: では、「中」の部分の音色は、どうでしたか？
 S10: 暗くて、怖い感じがした。
 T: どうして、暗くて、怖い感じに聴こえたの？
 S10: 低い音がしたからかな。
 T: では、本当に低い音がしたのかを確認するために、その部分をもう一度聴いてみましょう。
 S11: 確かに、低い音が聴こえた。
 S12: 同じ曲の中でも、こんなに曲想が変化しているのは、おもしろいね。
 S13: そうだね。「始め」の部分と「中」の部分で、音色が変わっただけなのに曲の雰囲気が全然違うね。
 S14: グリーグさん、いろいろ工夫されていてすごいね。



図7 聴き取ったことと感じ取ったことを分類整理した板書

5 考察

本研究は、音楽に合わせて体を動かしながら、音楽の特徴を捉えたり、互いの気付きを共有・共感したりしながら、自分が感じたことと、音楽を形づくっている要素とその働きとの関わりについて考える活動を通して、音楽のよさを感じ取り、主体的に音楽と関わるができる児童の育成をねらいとし実践した。

音楽に合わせて体を動かす活動では、鑑賞に苦手意識をもっていた児童も楽しそうに曲を聴きながら曲想の変化に合わせて体を動かすことができた。また、その中で、情景などの具体的なイメージをもったり、曲想及びその変化と音楽の構造との関わりについて気付いたりすることができた。

互いの気付きを共有・共感する交流活動においては、自分と友達の気付きや感じ方を比較し、共通点や相違点に気付き、音や音楽の捉え方を広げ深めることができた。そのことで、更に曲や演奏のよさを感じ、味わって聴く姿が見られた。

3時間目の「ききどころ」の紹介文でも、「僕が気に入ったところは・・・(略)旋律が変わって強弱が激しくなると、気持ちがドキドキしたり、ワクワクしたりする」など、児童は、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、捉えたことと自己のイメージや感情などと関連付けて考えていることが分かる。その姿から、音楽のよさを感じ取り、主体的に音楽と関わろうとする児童の育成につながったと考える。今後も本研究の活動を継続し、主体的に音楽と関わるができる児童を育てていきたい。